

空のきれいなまちで天体ショーの感動を

尾鷲市立天文科学館

平成2(1990)年10月、自治体として初の天文台がオープンした。

「尾鷲市立天文科学館」は、市街地の

中心部である中村山に建設され、昨年で30年。

これまでの来館者に感謝し、オリジナルの

「メシエ天体カタログ」のポスターを完成させた。



丘の上の中村山公園内に位置する天文科学館。1階に宇宙に関する展示、最上階がドーム構造で81センチの望遠鏡を設置する。自治体の天文台は尾鷲で建設後に各地で増加、今では450を数える



天体観察証明書を全惑星分集めると「7惑星観察証明書」が発行される。現在の達成者は52人

来館者が撮影した尾鷲独自の天体ポスター

昨年10月で開館30周年となった「尾鷲市立天文科学館」。この記念に、メシエ天体の写真を取めたオリジナルポスターを制作した。アンドロメダ銀河やオリオン大星雲など、110個のメシエ天体が並び、天体観測指導員の湯浅祥司さんが企画し、夜間観望会に訪れた4歳から80代までの尾鷲市内外の51人が撮影したものだ。口径81センチと15センチの望遠鏡にカメラを取り付け、湯浅さんがピントを合わせたあと、来館者がシャッターを押す。湯浅さんは「空の良い状態はそんなに長く続かないんです。10分でもかなり変わってくる」といい、完成に約3年を費やした。



A0判のポスター20枚、A1判は200枚作製し、市内の小中学校をはじめ、一般に配布。メシエ天体とはフランスの天文学者シャルル・メシエが作成した天体カタログに掲載されている星雲や星団のことで、現在1から110番まで登録されている



information
尾鷲市立天文科学館
【住所】尾鷲市中村町10-41中村山公園内
☎0597-23-0525
【営業】金・土・日曜オープン(金・土曜は19:00~21:00も開館)9:30~16:30
【料金】大人:200円 / 中・高生:100円 / 小学生:50円

「当時4歳の男の子が撮影したM27のあれい星雲は、念のために自分も撮っておいたのですが、男の子のものが一番よく写ってました」とのエピソードがほほえましい。

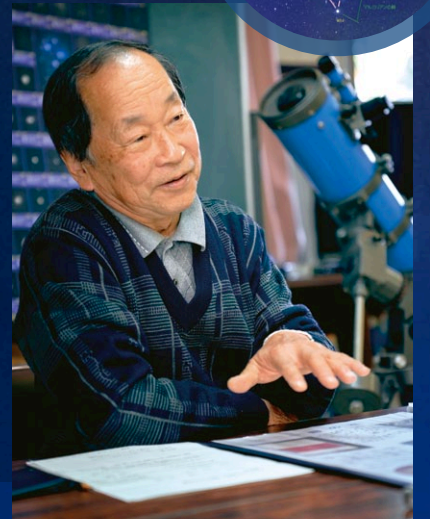
尾鷲の空は日本一雨が降るから星がきれい

自治体初の天文台となった尾鷲天文科学館は、地域振興を目的としたふるさと創生事業の交付金を活用して建設。この事業は一般公募され、釣り桟橋や雨の博物館の建設など179件の応募があった。審査を経て、湯浅さんの30ページにわたる提案書が採択される。

基本コンセプトは「お母さんが子どもの手を引いてやってこれる」天文台とし、中村山に建設。天文台は山の上など光の届かない場所に造られることが多いが、コンセプトに沿った市街地が譲れない条件だった。視察も多く、「尾鷲を追い越せ」で大きな望遠鏡を

尾鷲市立天文科学館 湯浅祥司さん

さまざまな企画を催し、出張トークにも出かけるアイデアマン。右は湯浅さんが尾鷲の空で見つけたハート型の銀河。おとめ座の一角に連なる



備えた天文台が増えていった。

これまでにスタートレッキングなどさまざまな催しが開かれ、現在も夜間観望会が盛ん。また身近に天体に親しんでもらおうと「天体観察証明書」を発行している。

太陽系の全惑星を観察しようというもので、達成には平均2年かかっている。「7回通つてもらってはなかなか大変ですが、尾鷲の場合は空がきれいだから見てもらえるチャンスは多いと思います」と湯浅さん。一日に最大5個の天体を観察できた日もあるという。

湯浅さんが提案した企画書に「尾鷲の空は全国一」とのコピーがある。「尾鷲では降れば土砂降

り、雨の天然シャワーが空気中の埃を洗ってくれる」と湯浅さん。これこそが、立派な望遠鏡が尾鷲にあることを納得させる言葉だ。

そんな尾鷲の空を眺めようと、十年近く通い続けた歌人がいる。伊勢市在住の久留一枝さんは「サファイヤとルビー輝やくオリオン座尾鷲の空に高く舞い立つ」など、夜空に神秘性を感じ、多くの歌をこの場所で詠んだ。天文科学館の1階に、その一部が紹介されている。

12月14日は、ふたご座流星群の活動が活発になる。星空のロマンを観察し、宇宙の美しさを感じてみたい。